



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱つだぬま 児童発達支援			
保護者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日			
保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	11名
従業者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日			
従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	6名
事業者向け自己評価表作成日	2025年3月28日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心して楽しく通える環境が整っていること。	様々な種類の活動を取り入れることで、子どもたちが「楽しい」と感じながら成長できるように工夫しています。また、子どもが意欲的に取り組める環境づくりを心がけています。	子どもたちがより意欲的に活動できるよう、新しい遊びや学びの要素を取り入れ、活動内容の幅を広げていきます。 また、職員間の連携を強化し、支援の質をさらに高めていきます。
2	子ども一人ひとりに合わせたわかりやすく具体的な個別支援計画作成し、それを基にした支援を行っていること。	モニタリングや普段のやりとりを通じて、保護者のニーズや子どもが困っていることを把握し、その情報を基にご家庭に寄り添った個別支援計画を作成しています。	子どもたちの興味や発達段階に応じた新しい支援方法や活動を取り入れ、さらなる成長を促進できるよう、職員の質を高めていきます。
3	保護者が日常的に子どもの様子を把握できるよう、クラウドサービスやSNSを活用して、活動の様子を写真と共に積極的に発信していること。	文字だけでなく、写真も用いて活動の様子を伝えることで、保護者が子どもの成長や楽しんでいる様子を視覚的に確認できるようにしています。	引き続き、クラウドサービスやSNSを通じて活動の内容をお伝えしていきます。また、保護者からの反応やフィードバックを活かし、よりわかりやすく、充実した情報提供ができるように努めていきます。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応の周知・発信不足なこと。	緊急時や感染症に関するマニュアルは作成していますが、その情報が保護者に十分に周知されていないことが課題です。表示の対応の情報発信が不十分であることが要因と考えられます。	LINEを活用して非常時対応のマニュアルを保護者と共有します。また、普段行っている避難訓練とは別に保護者が参加できる避難訓練を実施し、実際の対応を確認していただける機会を提供します。
2	保護者同士の交流や、家族支援プログラムの不足なこと。	迅速に相談対応は行っていますが、ペアレントトレーニングや保護者間の交流を深めるイベントは実施していませんでした。	共働き世帯が多いため、平日の午前中に開催して参加者が集まるかを確認する必要があります。保護者のニーズを把握し、タイミングや内容を慎重に調整していきます。
3	環境・体制整備不足なこと。	建物の構造上、改善が難しい部分もありますが、その中でもできるかぎり工夫していきたいと考えています。昨年のアンケート結果を受けて床のマットは新調しましたが、今後も子どもたちが心地よく過ごせる環境作りをしていきます。	限られた空間や設備の中で、より快適な環境を提供できるよう、引き続き改善のアイデアを検討し、実行していきます。